



東京歯科大学

P-Comニュース

記念号

第50号

2024年12月1日発行

学長の挨拶



教授 一戸 達也

P-Com 会員の皆様におかれましては、日頃からコミュニケーション学実習で学生に温かいご指導とご助言をいただき、ありがとうございます。本学のコミュニケーション学実習は、患者様の生の声を学生に伝えることのできる特色ある教育プログラムとして高く評価され、昨年度には学校教育法に基づく大学認証評価で本学の長所に挙げられました。本学を志望する受験生も、面接の際に、本学では充実したコミュニケーション学が学べると言ってくれています。これもひとえに P-Com 会員の皆様の熱い情熱の賜物と考えております。

様々な時代背景によって学生の気質も以前とかなり違ってきていますが、医療人の最も基本的な資質としてのコミュニケーション能力の養成が歯学部教育の中で極めて重要な位置を占めることに変わりはありません。

P-Com 会員の皆様におかれましては、これからも本学の学生教育に変わらぬご支援をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

歯科医学教育開発センター主任の挨拶



東京歯科大学 教務部長
歯科医学教育開発センター主任
教授 阿部 伸一

近年の歯科医療は、細分化・高度化が進んでいます。すなわち、個々の口腔内を中心とした問題点を狭く深く明らかにし、その診断・治療などの精度が増しています。しかし、治療の過程で同時に求められることは、患者さんのすべてを診ることです。病気の治療だけでなく、患者さんに寄り添う事ができる「歯科医師」の養成に、コミュニケーション学は寄与しています。

皆様にご参加いただいております「P-Com（ペイシェント・コミュニティ）」は、東京歯科大学のカリキュラムの中で重要視している「高い倫理性と患者さんとのコミュニケーション能力を持った学生の育成」

にご協力いただくことを目的に発足しております。皆様にご参加いただく学生へのコミュニケーション教育「P-Com」は本学にとって欠かせない教育の柱となっております。

この趣旨をご理解いただき、今後も続けて社会貢献のできる人材育成にご協力いただければ幸いです。

コミュニケーション学担当教員の挨拶



東京歯科大学 教務副部長
教授 平田 創一郎

P-Com ニュースも第 50 号ということで、P-Com の立ち上げから関わったひとりとして大変に感慨深く思います。

はじまりは 2009（平成 21）年度の文部科学省大学学生支援推進事業テーマ A での取り組みでした。「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成」をテーマに、安心信頼して診療を任せることができる歯科医師としての人間力の養成を目指すプログラムの一環として、市民ボランティアによる「ペイシェント・コミュニティ (P-Com)」を立ち上げました。完全に画一化された標準模擬患者とは異なり、十人十色の価値観を示していただく P-Com。われわれ医療従事者は、そのような患者に育てて頂いているのです。

P-Com のメンバーの皆様にはその理念をご理解頂き、いつも厳しくも温かいお言葉を学生に頂戴しております。心からお礼申し上げますと共に、今後をご指導賜りますようお願い申し上げます。

2024 年度 第 4 学年 課題講義（コミュニケーション学）

11 月 8 日



まずはじめに、患者様を代表して P-Com 会員様の山田幸子様より「患者様の立場から歯科医師に望むこと」と題した講義が行われ、続いて、学生が教室の前に出て、P-Com 会員様と同級生、指導医役の教員の前で医療面接ロールプレイを行いました。

ロールプレイ終了後、教室全体でフリーディスカッションを行い、最後に指導医役の教員よりフィードバック講義が行われました。

第 5 学年から始まる臨床実習の間では患者様の訴えを漏れなく汲み取り、コミュニケーション技法に基づいた医療面接を行うことが必須となります。

フリーディスカッションでは、P-Com 会員様より励ましのお言葉や患者様目線での的確なアドバイスを頂きました。学生たちは更にコミュニケーション技法に磨きをかけて、座学や基礎実習で学んだ知識をもとに来年から始まる臨床実習の場で活躍してくれることと思います。



2024 年度 第3学年 コミュニケーション学「医療面接」

10月17日/24日/31日/11月7日



まずはじめに、医療面接の概要を、スライドと映像を使って学びました。表情変化の練習や対人距離測定の実習を通して、患者様との信頼関係を築くためのコミュニケーションに必要なカウンセリング技法を身に着けました。そして、言語的コミュニケーションの重要性を学ぶため、2人ひと組で「肩もみ」を行いました。施術する側が一方的に肩もみを行った場合と、相手と会話をして要望を聞いた上で施術を行った場合の反応や感想の違いから、コミュニケーションがいかに大切であることを体感しました。

次に、初診時の医療面接ロールプレイ実習が行われました。毎回異なるシナリオの中で、学生が歯科医師役と患者役をローテーションで演じて医療面接を行いました。10名程の班で行い、歯科医師役と患者役以外の班員は、評価者として医療面接を評価します。初回は資料を見ながら進めているにもかかわらず、スムーズに行うことが出来なかった医療面接が、最終回では、資料を見ずに患者役と上手くコミュニケーションをとりつつ流れを作っていけるようになりました。

見学会に参加された P-Com 会員様にも評価者として各班に入ってください、患者様目線でのコメントをお話しいただきました。医療面接の良し悪しの評価だけではなく、コミュニケーションがいかに大切かということを伝えてくださる P-Com 会員様の貴重なコメントに、学生達はとても真剣に耳を傾けていました。

P-Com 会員様のご様子も、初回は心配そうに見守るような表情をされていたり、真剣にアドバイスしていただいている姿を多く見かけましたが、最終回は、笑顔で学生を褒めていただけるシーンが多く学生達の成長を感じることが出来ました。



P-Com 会員のみなさまからのご感想

【10月17日】

◆最初なので緊張していましたが、徐々に良い面接になってきています。慣れてくると良い結果になると思います。とても熱心に取り組んでいました。

【10月24日】

◆落ち着いた雰囲気でもとてもスムーズに出来ていたと思いますが、声はもう少し大きい方が良いと感じました。患者役に寄り添いや共感の言葉が聞けてうれしかったです。多くの医師役がペンを置き、書くと聞くを分けていたのが良いと感じました。

【10月31日】

◆医療面接の進め方もレベルが上がってきました。一生懸命に取り組んでいてメンバーの評価もしっかりとコメント出来ていたので良かったと思います。

◆グッと成長しましたね。非常に期待できる感じで将来楽しみです。

【11月7日】

◆歯ブラシの使い方については、もう少し上手な説明が欲しいと感じました。

◆身振り手振りも加わってきて自らテーマを決めて実行する姿が素晴らしいと感じました。ほぼ、全員が必要なことを聞き取り助言したり、アイコンタクトや相槌を打つことが出来ていました。

授業見学にご参加いただきました P-Com 会員のみなさま、本当にありがとうございました。学生達から、授業をご見学いただいた感想が届きましたので、以下に掲載いたします。



学生から P-Com 会員のみなさまへ

第3学年
女子学生



聞く項目の多さや言葉遣いに重きを置いていた私たちに対して、P-Com の方々は自分たちでは気づけなかった患者さん目線のアドバイスを沢山いただきました。今回の学びを活かして、技術と知識のみの歯科医師ではなく、患者さんとの信頼関係を築ける歯科医師を目指そうと思います。

第3学年
女子学生



P-Com 会員の方々から実際に患者さん目線でのアドバイスを頂くことで、医療人としてのあるべき姿をより客観的に考える良い機会となりました。初回はシナリオに沿って進めていくので精一杯でしたが、最終回では P-Com 会員の方々や先生・同班の評価者からの意見を活かしながらスムーズに医療面接を行うことができました。

第3学年
男子学生



P-Com 会員の方々から、患者さんの心情に寄り添うためのアドバイスを頂き、自分では気づけない貴重な学びを得ました。特に患者さんの不安を和らげる細やかな配慮の重要性を実感しました。この学びを糧に、確かな技術と温かい心を持つ、信頼される歯科医師を目指して精進してまいります。貴重なご指導を頂き誠にありがとうございました。

第3学年
女子学生



この度は貴重なお時間を頂きありがとうございました。P-Com の方々のひとつひとつのフィードバックに、患者さんが医療者に何を求めているのかを深く考えさせられました。「話を聞いてもらう安心感」や「信頼される喜び」の大切さを実感し、胸が熱くなりました。この経験を糧に、温かく信頼される歯科医師を目指して参ります。

来年度の活動スケジュールにつきましては、またあらためてご案内いたします。
ご無理のない範囲でご参加いただけますと幸いです。